

ひとり情シスのIです。

昨日の Windows7 から Windows10 へ移行の続きです。昨日までに説明した表をもとに、今日からは移行に必要なものの洗い出しです。

まず、PC ハードのうち、新規購入か OS 入れ替えかの判断の分かれ目は、以下の通りです。

導入から 4、5 年以上経過したハード→新規購入またはリース
それより新しい→Windows10 購入してアップグレード

根拠としては、会社で使用している PC については、自宅の PC と異なり、稼働時間が圧倒的に長いです。

平日 8 時間は稼働しており、5 年では、5 年間×年間 52 週×5 日×8 時間=10400 時間電源が入っていることとなります。おおむね HDD も壊れかかってくるのも、これぐらいからとなります。

ちなみに国税庁の HP では、PC の耐用年数は 4 年（サーバー除く）となっております。

https://www.keisan.nta.go.jp/survey/publish/34255/faq/34311/faq_34358.php

もしかすると、ここ数年で購入した Windows7PC は、Windows10 のダウングレード権を行使したものの可能性もあるので、その場合は無料で Windows10 にアップグレードできるので、購入先に確認するとよいでしょう。

あと、よく聞かれるのが、中古で安いのは無いかという話ですが、こういう情報機器は陳腐化が激しいこと、購入しても数年で故障するリスクがあること、新品もそんなに価格差は無い（1 万～2 万円程度）ということもあり、個人使用でネット見る程度ならまだしも、会社の業務で中古を使うには問題があると考えています。

突然の故障でメンテナンス作業に費やされるコストもばかになりません、たとえばその解決に 1 日かかったとすると、最初に中古 PC 購入で 1 万円節約したとしても、I の 1 日分の人件費で逆にコストアップとなります。さらに壊れた PC の使用者が、その間作業が止まることも考慮に入れると、さらに損害は膨らみます。

新品で 3 年保証を付けたほうが、突然の故障のリスクも最小限に抑えられ、後々長く使えます。

それでは、また明日。(I)